

議会報告会報告書（前半）

開催日時	平成30年4月11日（水） 19:00～20:03
開催場所	松本市役所（議員協議会室）
出席議員	青木崇、若林真一、吉村幸代、田口輝子、中島昌子、犬飼信雄、小林弘明、阿部功祐、澤田佐久子、芝山稔、柿澤潔、宮下正夫、青木豊子、南山国彦、太田更三、池田国昭
参加人数	24名
報告に対する質疑	<p>（意見）</p> <p>地域包括ケアシステムの一環として、笹賀で昨年4月にオレンジカフェ（認知症カフェ）を始めた。地域福祉推進事業で市に支援してもらい始めることができた。この制度を創設していただいたことに感謝したい。</p> <p>Q 消費者保護活動の「消費者市民社会の構築」の具体的な取組内容は。また、市と県の連携について尋ねたい。</p> <p>A 総合相談窓口で様々な市民の相談を受けており、その中で消費者相談も受けている。冊子について市からは若い人達に重点的に消費者教育をしていくと説明を受けている。</p> <p>Q 県としても市と連携したいと考えているようだ。県の消費生活サポーターとの市の連携の現状は。</p> <p>A （連携が必要という）貴重な提案をいただいたので市へ伝える。</p> <p>Q 介護保険法の改正が市の広報でしっかり報告されていない。受けられるサービスがあるのに知らない市民もいる。細かく市民に知らせるべきである。</p> <p>A 市民へより広く発信していくのは重要である。市へ伝える。</p> <p>Q 児童館で時々活動をしており、学習面でつまづいている子が多いと感じている。コミュニティスクール事業について、地域と一体となってどう子どもの学力向上を図っていくか、という意識が松本市は薄いと思う。伊那市では地域の方が学校に入り、算数などでつまづいているところをサポートし、学力の差が縮まっているという。お金がかかることについてではなく、学社一体となるために学校の門戸をどう広げるかを考えてほしい。</p> <p>A 国や県からコミュニティスクールの考え方が出される中、松本市と</p>

してもモデルをつくるため、様々な学校で取組みがされている。学力向上という点には手が届いていないと感じている。委員会としても研究し、市へ求めていきたい。

Q 発達障がいの子どもが社会で活躍するために、発達障がいの子どもたちを排除するのではなく、学校で共に学ぶということが重要。先生への研修会の回数を増加させたらどうか。

A 自分達の良さや強みをきちんと発揮できる雰囲気醸成できるよう検討し研究していく。研修会については市に伝える。

Q 松くい虫対策事業費が計上されているがおおよそどの位の面積をカバーできるのか尋ねたい。また、この予算が妥当なのかの認識についてお尋ねしたい。

Q-2 市議会で薬剤の空中散布をもっと議論すべきではないか。

A 空中散布の予算はわずかな予算。やるかやらないかは地域と論議をしながら進めている。

散布について反対はなかなか防止する側にはわからない部分がある。県の基準を順守しながら進めている。

Q ICT活用地域産業振興事業について委員会を傍聴したのだが、AIやICTと言っているが、委員会は書類の山積みで、ノートパソコンの1台もない。ペーパーレスを経済地域委員会から率先して始めたらどうか。

A 理事者は部長以上の会議で統一タブレットを取り入れている。議会としてもペーパーレス化を目的に会議で統一タブレットを検討している。

Q 議会報告会を町会役員だけではなく一般の市民が大勢参加できるようにしてほしい。どのように周知しているのか。

A 今までは地区ごとで開催していたが近年3つの連合町会をブロックにして開催する方法に変更した。広報についてはHP、市の広報、議会だより、議員が直接関係団体へ様々な方法で告知している。チラシも関係個所に置いているが周知の方法については検証して周知の方法を更に検討していく。

Q 市長から、中核市移行を目指すとの発言が2月定例会であったが、この議会報告会で触れられていないためお聞きしたい。また、市議

	<p>会としてまとまって、行政サイドではなくこれから中核市移行が必要なのか否か調査研究していくことを考えているのかお聞きしたい。</p> <p>A 平成32年4月1日と言っていたが時期を見直すと市長からは報告があった。結論から言うと現在、市の方針が示されパブリックコメントを募集している。様々な課題があるのは認識している。</p> <p>(意見)</p> <p>パブリックコメントは、実際には寄せられる意見はほとんどなく、形骸化しているのが現状である。中核市移行問題は市民にとって専門的でわかりづらく、意見も寄せにくいと思う。行政はともすれば都合の悪い数字などは出たくない、という面があり、この間の一般質問を傍聴していてもそう感じた。この問題は、市議会として行政と対峙してやっていくという意気込みで、市民にわかりやすくなるよう、議会の力を挙げてやってほしい。</p>
その他	

松本市議会議長 様

平成30年4月13日

上記のとおり報告します。

報告者 若林 真一

議会報告会報告書（意見交換会）

開催日時	平成30年4月11日（水）20:05 ～ 21:00
開催場所	松本市役所（議員協議会室）
出席議員	太田更三、柿澤 潔、犬飼信雄、中島昌子、吉村幸代
参加人数	2名
意見交換	<p>テーマ名（ 防災 ）</p> <p>司会：防災の取組みで困っていることや要望などを聞かせてほしい。</p> <p>Q：防災部長を務めている。国や県が観光客を誘致し、外国人も多く来松している。公民館などには防災関係の案内板があるが、市内に外国人向けの案内が整備されていないと感じている。避難所の1人当たりのスペースは畳1畳分などと聞くが、観光客のみならず外来者のためのスペースが確保できるのだろうか。第三地区にはイオンモールができ、遠方から多くの人々が集まって来ているわけだが、いざという時の案内は充分だろうか。災害時には誰が交通整理にあたるのか、こうした混乱がトラブルの元にならねば良いと思う。防災倉庫が小中学校に設置されているが、さらに増やす必要があるのではないか。民生委員や町会長は要援護者リストを持っているだろうが、他の支援者には「誰が普段どこにいるか」などの情報がなければ手助けしにくい。個人情報保護との兼ね合いは分かるが、「誰がどこにいるか」が分かれば救助も早まる。島内の防災備蓄倉庫はいつ完成する予定か。</p> <p>A：外国人向けの案内板の提案は大切な視点だ。確かに見当たらない。</p> <p>Q：様々な国の方々が来松されている。市民相談窓口に外国語のパンフレットが備えてあったが、公民館などにも置いてはどうか。基本的なルールを伝える必要もある。松本城の公認ガイドにも防災研修を受けてもらって、避難方法等の案内ができれば、町会の負担が減る。</p> <p>A：理事者に伝える。交通整理の件はどうか。</p> <p>A：大規模災害時に道路が通行可能かどうかにもよる。</p> <p>A：火災の時には消防団が交通整理にあたっているが、災害時の交通整理の担当は特に決まっていないのではないか。</p> <p>A：凶上訓練の際には役割分担がなされていたように記憶しているが、実際の展開はしていないかもしれない。良い提案なので伝える。</p> <p>A：四賀地区で大木が倒れて電線を切断してしまったことがあった。住</p>

民の方々が車を置いて通行止めにするなどして動いた。いざという時には住民の皆さんにも動いていただくのだろう。

A：有事の際に通行止めができるのかどうか、車の規制も問題になる。

Q：私も防災部長を務めている。災害時に「車を使うな」は難しい。ペットがいたりすると、何ととっても車が便利である。

A：避難所へ行く方法について、市は特に規制してはいない。交通整理の問題は、道路が通行不可能となった場合の話ではないのか。

Q：生活道路のことは地元の者でないと分からない。

A：関係諸団体や市の各部署において情報収集にあたることになるだろう。

A：備蓄倉庫の予定地は島内地区の国道19号線脇、地主も地区も了承し、平成30～31年度にかけて造成するということで予算化されている。一部の議員から反対意見もあったが、構造線にはあたらない上に、高速道路のインターチェンジに近く適切な場所である。平時には消防団のポンプ操法大会の会場としても利用されるようだ。

Q：ヘリポートのスペースもあるのか。

A：ヘリポートはない。

A：災害時の物資集積所、救援物資を受け入れ、反対側から出すようだ。

A：災害時支援物資集積拠点整備、熊本地震の教訓から学んで、物資の入口と出口を明確にした。全国初であり、いわばトラックターミナルの物資版である。

A：受入れ口は大型トラックの車高に合わせて高く、反対側は小分け用に低くして、効率良くするとのことだ。

A：個人情報の件だが、私の町会では、5年ほど前に自主防災組織が防災マップを作成した。要支援者宅にはマークをつけ、寝室の位置まで記載、公民館においてある。常会単位で作成したものを集めて町会版とし、消火栓の位置や医療関係者宅も記入してある。

A：私の町会でも隣組単位で「支援が必要か」を記入し、見直しを重ねている。その昔は様々な個人情報を記載した台帳があったが、今は大切な隣近所のこと分からない。

A：そうした取組みの事例集を作成してはどうか。市へ提案しよう。

A：備蓄倉庫は、小中学校すべてに整備完了したようだ。倉庫の鍵は、地域づくりセンターが保管している。

A：人口の5%分備蓄を10%に上げると聞いたが、どうなっているのだろうか。

A：イオンモールなど不特定多数の人々が集まる場所では、有事の際にどう誘導するのだろうか。イオンがやってくれるかどうかだ。

	<p>Q：SNSで大型店における防災訓練の写真を見たことがある。こうした取組みをPRすることで、防災に対する関心も高まる。</p> <p>A：備蓄倉庫には、発電機や段ボールベッド、トイレ、LEDライトが配備されている。筑摩野中学校の旧体育館に段ボールベッドがある。</p> <p>Q：このたび給水車を購入したという新聞記事を見た。</p> <p>A：3台に増え、北陸地方の大雪の際にも出動したようだ。</p> <p>A：観光客など、想定外の人数の方々の避難所の件はどう考えるか。</p> <p>Q：避難所間の情報のやり取りが大切ではないか。混み合っている避難所と比較的空いている避難所というような情報が把握できれば、調整も可能ではないか。</p> <p>A：各避難所には市役所職員が配置され、衛星無線が使用できる。</p> <p>A：衛星無線の電話を配備してあると聞いた。</p> <p>A：山岳の防災無線についても確認したい。</p> <p>Q：旭町小学校で避難所開設訓練を行った。避難所間の連絡が取れれば、分散調整ができると感じた。また、すぐ近くに信州大学付属病院があるのに、けが人を遠くへ連れて行かなくてはならないのか。</p> <p>A：地区ごとに医療救護所が指定されている。</p> <p>A：災害時の医療は、先ずトリアージを受けるところからではないか。</p> <p>A：医師会では派遣する医師が決まっているようだ。</p> <p>Q：キッセイホールなど、県の施設は避難所に指定されないのか。</p> <p>A：指定避難所は町会ごとに決められている。</p> <p>Q：自分がどこに避難したら良いかを知らない人が多いようだ。</p> <p>A：災害用の非常食も進化し、変化してきている。</p> <p>Q：防災公園に太陽光発電のライトを設置すれば、停電時も安心では。</p> <p>A：防災公園には必要なものは全て備わっているはずだから、あると思う。</p> <p>Q：いざという時に、ガードレールの一部が担架になる仕組みの製品があると聞いた。</p> <p>司会：少人数だったが、内容の濃い分科会であった。今後も何かあったら連絡していただき、一緒に活動していけたらと願う。</p>
その他	なし

松本市議会議長 様

平成30年4月12日

上記のとおり報告します。

報告者 吉村 幸代

議会報告会報告書（意見交換会）

開催日時	平成30年4月11日（水）	20:07～21:00
開催場所	松本市役所（第1委員会室）	
出席議員	宮下正夫、池田国昭、芝山稔、澤田佐久子、田口輝子、阿部功祐	
参加人数	11名	
意見交換	<p>テーマ名（高齢者の見守り）</p> <p>（司会者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3期松本市地域福祉計画・地域福祉活動計画の重点目標について紹介（計画16ページ：3つの重点目標について） <p>（参加者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期計画地域福祉計画は地区福祉ひろばを中心として検討し、市へ報告したが、その後どうなったか報告がない。福祉、地域づくりについてなどそれぞれ、地域へ下ろされ検討して、市へ報告してもその後の報告等がない。モデル地区はある程度報告されるが、それ以外の取組等がわからない。 ・地域づくり協議会を各地区で作っている。地区では形ばかりで中身のフォローまで至っていない状況。民生委員をやっているが、身近な情報が入ってこない。町会は半数が高齢者。以前に、町会で、住民の困りごと、やりたいことのアンケートをとった。住民同士のコミュニケーションをとりたいとの声があり、行事を計画したが、参加は少なく、役員のみ参加ということがあり、結局、やめることとなった。話したい、仲良くしたいなど困りごとがあっても実際に行動に移ってこない。地域づくりといってもその足元にもいない状況。昨年12月、町内で救急車が2件来た。そのうちの1件は途中でサイレンを止めてきて、出るときも赤色灯のみで途中からサイレンを鳴らして行った。その後、病院でその奥さんに会った。近所に気を遣っていた。 ・以前民生委員をやっていたとき、災害時を考え、高齢者、弱者の対応ということに視点を置き、日頃住民同士のお茶のみ場を作り、そこから情報を得ようと考えた。昨年4月から、オレンジカフェさくら（笹賀地区）を立ち上げた。毎月第3土曜日開催。今年度は平成30年度新規事業の地域福祉活動推進事業の補助を申請した。今後は範囲を広げていきたい、地域の力をつけるためのひとつとなれば 	

	<p>いいと思う。地域の情報が自然に集まってくれば、地域のパワーアップとなる。健康づくりをメインテーマにして講座も開催している。高齢者サポーター研修会でも取り組みの発表をした。平均20名参加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・城北地区は、福祉、健康、安全3つの部会があり、福祉部会が中心となって、「認知症にやさしいまちづくり」を活動の柱とした。オレンジカフェの必要性について1年半検討した。その中で、実際に介護された方から、地域の力は必要であったが理解されず、カフェがあれば助かったとの話をきいてカフェの開設に至った。現在40名のボランティアがいる。住民の理解を得ること、参加してもらえるようチラシを作成して周知している。「カフェすいれん」を開設。50～60名参加している。 <p>民生児童委員も参加している。そのカフェに来られない方のために、身近な場所として2カ所の町会公民館、(沢村、白金)でも開設している。</p> <p>楽しい時間を共有して、今後、自分の身近な場所、町会公民館でのさらなる開設にも期待している。近所が仲良くお付き合いしていくことが、地域包括システムの構築である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の状況は、活動の地域間の差、受け止め方の違いなどが聞かれる。住みよい町づくり協議会に補助金が出ているが、それを共有して活動しているかといえば、知らない方もいる。活動に差があり、取組みをされていないところに対して、市がテコ入れを行うことも必要。日頃から交流、コミュニケーションを取ることが大切でその場づくりが役目であると感じている。 ・市から民生委員にきた名簿に、地域の方が死亡となっていた。近所の人に見回りを頼んで、自宅に電気がついていたので訪問したら、元気でいた。この情報はどこからか市の担当に聞いてもはっきりした回答がなかった。他にも名簿の間違いがあった。書類のミスであったと回答があった。
その他	<p>(参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このような意見交換の場を増やしてほしい。今回、これだけの意見を聞いていただきありがたい。

松本市議会議長 様

平成30年4月12日

上記のとおり報告します。

報告者 阿部 功祐

議会報告会報告書（意見交換会）

開催日時	平成30年4月11日（水） 20:07～21:07
開催場所	松本市役所（第2委員会室）
出席議員	青木崇、若林真一、小林弘明、青木豊子・南山国彦
参加人数	10名
意見交換	<p>テーマ名（ 地域活動の担い手不足 ）</p> <p>市民A</p> <p>新しく引っ越してきて町会に加入したらすぐ役員にさせられた。町会の隣組も減少していて限界集落という言葉があるが限界町会になっている。何も知らないで町会長になり、しきたりもわからない。現状は空き家、空き地が増加していて困っているので今日は意見を聞きに来た。地域包括ケアシステムと言われているができるのか不安に思う。同じ人がずっと町会役員をやっていて交代しないため、後継者育成ができていない。</p> <p>市民B</p> <p>町会役員をやった人が増加すれば、町会のことをよく知っている人が増加する。災害時などに若い町会長が昼間働いていて地元に戻れないとしても、いざという時に町会役員経験者がいれば対応できると思う。町会が小さいために何年後かにはまた役員が回ってくる。</p> <p>災害時避難対応に力を入れており、各家庭の家庭状況をカードにしている。最初は個人情報と言って嫌がる人もいたが、命を守るためと説明し、全世帯に出してもらった。また、乳幼児から高齢者までが集まる親睦の会を作った。最初は若い人達が入ってこなかったが努力により顔を合わせる機会が増加してきた。役員の成り手についてもだんだん顔が見えるようになってきた。</p> <p>市民C</p> <p>町会の仕事が多岐にわたり、町会が何をやっているのかがよくわからない、大変そうという気持ちから、町会役員から遠ざかり、入会を敬遠したり役員が（よく知っている人に）固定化され・・・という悪循環がある。町会の役割がますます重要となる中、町会の仕事を見える化して、現役世代でも役員をできるように仕事を精査していくことが必要だ。そ</p>

してそれを個別の町会に任せるのは難しいと思う。町会運営という大きな課題を、議会が音頭をとって考えてほしい。

市民D

町会ごと一つの作業をしてもやり方や結果が全く違う。年齢に関わらず、市として専門職のようなリーダーの育成が必要ではないか。

市民E

強引に町会役員にさせられ70歳を超えて思うことは、企業の定年が延長され町会役員を頼んでも男性には「働いている」と断られるようになった。そこで、町会役員の女性の比率を高めるようにした。町会役員の後任者を早く決めて任期中に手伝ってもらいながら仕事を教えていくようにした。

地域づくりセンターができて地区としては助かっている。行事が町会ではなく徐々に地区ごとになってきており、町内公民館の役割も変わってきた。役員編成を再考するのもありだと思う。町会公民館の建設増改築等の補助金がニーズに合っていないので市議会でも考えてほしい。今後、町会の公民館は介護予防センターとしての役割を果たしていければいいと思う。

市民F

地方自治法では自治会は行政の一部ではないと明記されている。町会に行政が頼り負担を押し付けていてやるが多すぎてパンク状態になっている。町会の仕事を減らしてほしい。町会に加入していない人も松本市民であり町会長に連絡すれば全て伝わると行政も思わないでほしい。町会長の善意が当たり前になってきている。住人がほとんど居ないのに町会になっているところや巨大化した町会は再編をしたらどうか。役員補助を増額するとか町会役員の定年制を考えたら若い人も町会の事を考えると思う。町会の役割を整理したらどうか。

市民G

町会が行政のアウトソーシング使われていると思う。地元は松本で今は新潟に住んでいるが町会に入りづらい雰囲気はある。若者にも頼むことは頼んでいくが町会頼りはよくないと思う。

市民H

役員が交代できる（する）ルールを作った。

市民 I

町会長と衛生部長のやり手がない。長年やっているとマンネリ化・独裁化して役員を他の人にやらせないという風潮もあり、意見が言えない。町会役員の後任者を育てていかななくてはいけないが育てる人材がない状態。

議員 A

昨年町会の役員をやって大変だと感じたし大変という話を聞く。町会に入っている、入っていないで市民同士の不公平感が生まれる。ゴミ出しや災害時にどうするのかという時に町会組織が必要だと感じる。若い世代に町会の活動をしてもらうか大きなテーマになっている。

議員 B

女性を町会役員の中に複数入れると活性化する。運動会やお祭りは子どもが主体なので子どものためという意識で継続して若手に促してはどうか。

議員 C

田舎といわれる地区なので繋がりが強い。住民が少ないために誰かどうかが役員をやらなくてはならない。そのため、いずれ役員が回ってくると思っているので顔をよく知っており頼みやすい。ただ子どもが少なくなっているのが不安を抱えている。

議員 D

役員を分担制にすれば良いと思う。町会長が主体とならずに専門として誰かが行うようになれば良いのではないか。地域づくりセンターをもっと充実させて、複数ある町会をしっかりとみられるようにしなければならない。三世代交流ができる子どもを主体としたまちづくりができればいい。

議員 E

市への要望というものは出されているので議会として精査して方向付けをしていきたい。地区によって地域づくりは特色があるので共通の切り口として何に取り組むか。今までやってきた町会活動の中に包括ケアなどが含まれ複雑になってきているので目的や事業整理して考えていかななくてはいけない。

	<p>市民 J</p> <p>地域づくり課でゆるやかな協議体を進めているがうまくいっていないのではないか。行政も縦ではなく横一体のようになり行政もゆるやかな協議体のように一本化してほしい。</p>
その他	

松本市議会議長 様

平成30年4月13日

上記のとおり報告します。

報告者 若林真一